

## 岡山 裕 研究会 (アメリカ合衆国の政治) 募集要項

当研究会では、2019 年度の受講生（最大で 15 名程度）を以下の要領で募集します。よく読んで応募するようにしてください。

### 本研究会のねらい

この研究会では、アメリカ合衆国の政治の研究を通じて、受講者の皆さんが筋道立って考え、口頭で、また文章を通じてきちんと議論できるようになること、そしてそれを楽しめるようになることを目指しています。そのため、単にアメリカについて色々読んで勉強する、というのではなく、研究の方法論にも関心を払い、また早い段階から各自で独自のテーマを設定して学術的な研究を進めてもらうことにしています。課題文献の講読もしますが、研究会内や他大学との合同ゼミを通じた成果発表や、その予行演習といった形で議論することの方が多くなります。ですから、研究会の充実は、各自が個別に取り組む意欲と程度に大きく左右されます。どの研究会もそうだと思いますが、徹底的に先行研究や資料を探して読み、独自の議論とその検証方法を試行錯誤して考えるといった自主性や根気強さが要求されますし、そのために相当の時間を割くことも必要になります。サークル活動等と両立することは十分可能ですが、計画的に、きちんと切り替えて時間を使う必要があると思ってください。

研究は、進めている間は楽しいよりも苦しいことの方が多いですが、前に進んだときの達成感は格別です。またやればやっただけ（当事者が意識できるかはともかく）知的能力・スキルが身につけていきますし、それによってさらに議論が楽しめるようになります。担当教員としては、努力する人への助力は惜しまないつもりです。情熱を持って、楽しく・苦しく、また仲良く切磋琢磨していける皆さんの応募をお待ちしています。

### 応募に際して留意すべき点

- ・担当者の岡山は、2020 年度に在外研究に出ることが決まっています。そのため、この年度（4 年次）には毎週の授業は開講されません。ただし、卒業論文の指導は（遠隔で）行い、また単位も通常通り取得可能です。また岡山が日本にいる間に論文を執筆して、エキストラの単位を取得することもできます。詳しくは個別にメールでお問い合わせください。

- ・上のような事情から、2019 年度は原則として春・秋両方の学期に参加できる方を受け入れます（つまり、2019 年度夏から留学に出られるといった場合は、対象外となります）。ただし、1 次募集で人数面で大幅に余裕が出た場合、また 2 次募集では、それ以外の方を受け入れます。

- ・当研究会は、水曜日の 4・5 限に 2 学年合同で授業を行います。延長することもあるので、水曜 4 限以降に定期的な予定を入れないことが、入会の条件になります。

- ・当研究会では、法学部政治学科の学生と同様の条件で活動できる場合、他学部・他学科の学生の応募を受けつけます。なお、複数の研究会をかけもちすることは妨げませんが、受講者はある程度以上の時間を予習や研究のために使う心づもりがあるという前提でカリキュラムが組み立てられていますから、負担は軽くないと考えてください。

### 統一選考についての注意事項

2019 年 2 月 4 日（月）に予定されている統一選考では、担当教員との個別面接および事前課題（次ページ参照）に基づいたグループ討論を予定しています。時間・場所は改めて連絡しますが、必ず以下を持参するようにしてください。

- ・課題文献および自分の応募書類を印刷したもの（必要に応じて参照できるように）
- ・最新の成績表（コピーでかまいません。選考の参考にします）

## 応募書類について

・全ての文書は、A4 サイズ・横書きで作成してください。なお、記述は全て日本語で行ってください。

### 1 ページ目 <自己紹介・志望動機>

最初に氏名、所属学部・学科、学籍番号、電子メールアドレス、統一選考日当日連絡の取れる電話番号を記載すること。ページの残りを使って、自己紹介と志望動機を記すこと。後者には、入会が認められたらどんな研究をしたいかについての記述を盛り込んでください。

### 2 ページ目以降 <アメリカ民主主義の危機?>

近年、アメリカの民主主義が危機に瀕しているのではないかという議論が盛んに行われています。そこで大きな存在感を持っている次の書物（翻訳でかまいません）を読んだうえで、二つの課題に取り組んでください。二つの間で、必ずページを変えること。またいずれの課題についても、必要に応じて他の文献を参照し、適切に注を付してください。

Steven Levitsky and Daniel Ziblatt, *How Democracies Die: What History Reveals about Our Future* (New York: Penguin Random House, 2018). (邦訳 スティーブン・レビツキー、ダニエル・ジブラット (濱野大道訳)『民主主義の死に方:二極化する政治が招く独裁への道』(新潮社、2018)) …この文献は、2019 年度春学期の授業時にも取り上げる予定です

**課題 1:** 以下のブログ記事を読み、そこでなされている上の書物の論評がどのように・どの程度妥当なのか、あるいは妥当でないのかを、根拠を明確にしながらか 1500 字以内で論じてください。

Emily Holland and Hadas Aron, “We Don’t Know How Democracies Die,” LSE US Centre blog.  
URL: <http://bit.ly/2EvsEVU>

**課題 2:** レヴィツキーとジブラットの書物で、アメリカの歴史的過去を参照しつつ行われている議論に着目して、優れているところと限界について、4000 字以上で論じてください。対象としては、取り上げられている歴史的な出来事の解釈や位置づけについて、また今日の政治を考える際に歴史的過去を援用する際の仕方について等が考えられるでしょう。様々な論点を取り上げてかまいませんが、全体としてまとまった文章になるよう心がけ、また感想を求めているわけではないので、必ず根拠を明確にして論じること。

### 課題に取り組むにあたっての注意点

・本課題の記述は、選考で最も重視されますので、よく考えて取り組んでください。評価に際しては、出来不出来を無視するわけではありませんが、課題に正面から取り組んでいるか（形式的な指示を守っているかを含む）を最も重視します。

・文書全てを一つのファイルとし、マイクロソフト・ワード形式で担当教員宛ての電子メールに添付して送付すること。受信を確認し次第その旨返信するので、1 日以上経っても返信のない場合は確認の連絡をとってください。提出の遅れや他の手段による提出は理由の如何に関わらず一切認めないので、余裕を持って行動すること。

送付先アドレス： okayama@keio.jp (件名を「研究会応募」とすること)

締め切り： 2019 年 1 月 31 日 (厳守・当方が受信した時刻で判断します)